



JICA 草の根支援 飯田からフィリピンへ

「はじめ私は、水資源の管理について学ぶことが飯田への訪問の目的であったと考えていました。けれども、飯田での研修を通して、ものの考え方、原理原則が何よりも重要であるということに気づきました。皆が共通した考え方を持つと、水以外のいろいろな問題にも同じように適用できるということを学びました。」

1月18日から27日にかけて飯田で地域づくりを進める「ひさかた風土舎」メンバー、竜丘公民館の活動家、飯田市職員5人が、JICA事業「参加型地域社会開発」の草の根支援グループとして、フィリピン・レガスピ市を訪問しました。

冒頭は支援を行ったレガスピ市のバランガイ・エスタンザの前村長の発言です。

レガスピ市はフィリピンルソン島の北部にある、人口15万人の地方都市です。バランガイは日本の集落。今回の支援対象となったのは「プロ」「エスタンザ」の二つの集落です。109世帯626人の暮らすプロは海沿いの漁村、83世帯480人が暮らすエスタンザは山間の急傾斜地にあります。それぞれの集落とも大変貧しい地域で、水道施設はありません。プロでは一箇所しかなく水量も乏しい湧き水から毎日数時間をかけて飲み水を確保しています。エスタンザでは水汲みのために早朝から、片道20分をかけて水汲みをしなければなりません。



住民自らの力で村づくり 新しい参加手法「PLSD」

Participatory(参加型)Local(地域)Social(社会)Development(開発)。日本福祉大学の太濱裕准教授らが開発した、第三世界開発のための新しい考え方です。

「多くの子どもたちが生まれてまもなく命を失っていきました。その大きな原因は不衛生な飲み水を与えていたため。その状況を改善しようと、井戸を掘ってあげました。けれども村人はその井戸を使わずにこれまでどおりに不衛生な川の水を使い続けました。理由はなぜ井戸水を使うことが必要かを理解していなかったため。」



これまでの一般的な援助の方法は、援助する側が一方向的に物を与えていました。そのためせっかくの援助が使われないままに終わってしまいました。

PLSDは第三世界の住民自らが問題を見つけ、その解決の方法を学び、実行しようという新たな開発援助の手法です。

JICA中部の事業として、第三世界の政府職員やNGO活動家を対象に、日本福祉大学が受託して1997年から始まりました。毎年2月と8月、約1ヶ月間研修が行われ、このうち飯田で1週間、現地研修が行われています。これまで200人が受講。このうちフィリピンからの参加者が、自国でPLSDの手法を活かしたいと考えたことがレガスピ市の取り組みにつながりました。

公民館と地域づくり 世界に広がる

飯田の取り組み

住民自らが将来の計画を作り実行する集落運営。住民主体の活動に行政職員が適切な支援を行う飯田の公民館活動。現地研修の地として飯田が選ばれた理由です。

集落運営の現場として選ばれた上久堅では、簡易水道、財産区、集会施設などの共有財産を住民自らが管理する実際に学んでいます。

竜丘公民館では、公民館活動として発足し、地域活動として発展したギフチョウ保護や古墳保全の活動と、高齢者が主体的な学習を進める「大人の学校」の取り組みなどを学びます。

「飯田の活動は、外に支援を求めるのではなく自分たちだけでやるという点がすごいと思いました」「自分たちの活動のために自分たちで資金を出し合っていることがすごいと感じました」「村の団結力がすごいと思いました」

それぞれの集落リーダーによる、飯田の取り組みに対する感想です。

「これまでフィリピンでは、何か困ったことがあれば、そのことを解決するためにすぐに行政に対して要望を行います。援助を受けるために作った住民組織は、行政の援助が終わったところで解散してしまいます。今回の取り組みを通して、初めて地域の問題を解決するために後まで続く住民組織作りが実現しました。」今回の取り組みを現地で支えてきた、織部資永さんの発言です。(次号に続く)



【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精織株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



皆で話し合う住民組織へ プロ村の取り組み

「ペソの値上がりで、日本からの支援金額が目減りして、当初予定した通りの工事ができなくなりました。そこで私たちは話し合い、村からこの工事に雇用されている人たちの労賃を一日200ペソから140ペソに減額することを決めました」。



1月21日、JICA 草の根支援団の一行は上水道の建設を進めるプロ村の教会で、住民組織の皆さんと意見交換を行いました。

冒頭は、工事に関わる困難を乗り越えた、村人たちの工夫です。

「私たちは公民館でグループを作り、交流や学習を行います。グループを作り、自分の一番困っていることを皆で話し合い、解決するのが公民館活動です。公民館活動で培った経験が、地域をよくする活動につながっています」。支援団の一員で、竜丘公民館の活動家、宮嶋聡子さんの発言です。



「今の組織こそが長年の夢を叶えてくれる組織です。この水道事業の利益が次の活動資金としてつながることで、なくなることのない住民組織が初めてできました」「一人ひとりの声が出てくるようになりました。物事を決めるときにもトップが決めて下に伝えるのではなく、一人ひとりが自分の考えを出し合って決めるようになりました」。



村の発展を考えるように エスタンザ村の取り組み

「個人のことは考えていなかった私たちが、このプロジェクトが始まって、はじめて村を発展させようと思うようになりました。村人同士の協力が強くなり、村の人たちが身の回りに起きていることに興味を持つようになりました」。



23日はエスタンザ村を訪問。すでにプロ村では上水道の給排水施設までできあがりつつありますが、エスタンザ村はまだ井戸の掘削中です。

「私たちが子どもの頃、水くみは子どもの仕事。朝学校に行く前にバケツを担いで水くみをしました。不便な仕事をなんとかしようと地域で協力し、水道ができたのは二十歳の頃です。皆さんも協働の力で取り組んでください」。竜丘公民館の活動家、下平隆司さんの発言です。



「飯田へ訪れて学んだことはものの見方考え方。共通した考え方を持つと、水以外の問題でも村人が協力すれば解決できることを学びました」「私たちが与えていただいたのは、水だけでなく責任や協力の大切さです」参加者からの発言です。



話し合いの最中に掘削中の井戸から水が出たというニュース。貴重な瞬間に立ち会うことができ一同感動。



住民自治を支える 献身的な行政職員の存在

「飯田での体験や、参加型地域社会開発(PLSD)の研修を通して、地域でもできることがかなりあることに気づきました。レガスピ市として、初めての住民参加のプロジェクトです。他の地域やプロジェクトにも広げていくことができると思います」。市やNGOの立場で集落の活動を支援するテクニカルワーキンググループ(TWG)の中心的存在、ホモさんの発言です。22日はTWGメンバーとの話し合い。集落住民の自発的な活動を支える献身的な行政や行政職員の姿勢の大切さを実感。



ここは民主主義の学校

「住民自身が力をつけて協力し、地域を良くしていくことが私たちのねらいです。それがこれだけ成功したことは驚きです」。25日活動報告を行ったJICA フィリピン事務所の北村副所長の発言です。

「村人が水くみ労働から解放されたことが何よりです」とひさかた風土舎、多田井幸人さん。



「私たちのお手伝いした今回の事例は、まさに民主主義の学校です。むしろ日本に住む私たち自身がレガスピ市の皆さんに学ぶことが多いと感じました」。訪問団長でひさかた風土舎代表の長谷部三弘さん。



語り尽くせぬ経験をいただいた9日間でした。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



自己適合宣言も選択肢に 飯田市役所で公開研修

講師は小林和幸さん

「当社は飯田市の影響を受け、2004年1月に自己適合宣言を行いました。システムの



客観性や透明性を確保するために行っている『外部確認』に参加する識者の皆さんは、当社の取り組みにたいし『意外と普通ですね』という感想を口にします。ISO9000と比べて利害関係者の対象がきわめて広いISO14001。自己適合宣言を特別の取り組みと考えず、選択肢の一つとしてより多くの組織に広がることを期待しています」。

2月4日(月)飯田市役所で、市役所環境マネジメントシステム改正にあわせ、公開学習会が行われました。テーマは「環境ISO自己適合宣言のこれから」。講師は(株)いであの小林和幸さんです。研修には市役所職員80人の他、地域でEMSに取り組む民間事業所からも約20人の参加がありました。

小林さんは日本規格協会の進める環境ISO規格の改定作業などに関与。「ISO14001自己適合宣言をどのように行ったらよいか」という著書もあります。

「HPなどから調べると、自己適合宣言を行った組織は、昨年6月時点で公的機関が24、民間組織が28、公開していない事例でも推計すると、民間でも500ほどの組織が取り組んでいると思われれます」。

内部監査の充実や 情報発信と公開の取り組み

2003年1月23日飯田市役所は日本の自治体としてははじめて、ISO14001外部認証から自己適合宣言に移行しました。これまで毎年1月23日を「外部検証の日」と位置づけて、穂積新城市長、西寺多治見市長などを招いたトップ対談などを行ってきました。本年からは1月23日を定例のマニュアル改正の日と位置づけ、マニュアル改正の学習会にあわせた外部講師による研修会を行うこととしました。

「当社では自己適合宣言の客観性や透明性を担保するために、『環境管理情報の定期発信』『第2者監査』『情報公開』『外部確認』『規格適合性チェックリストの導入』などの仕組みを導入しています。内部監査員の力量を図るために、設問を作り、セルフチェックを進めています。規格に要求された60の要求事項を各部門ごと、セルフチェックを行うための規格適合性チェックリストを作りました」。

「当社では自己適合宣言の客観性や透明性を担保するために、『環境管理情報の定期発信』『第2者監査』『情報公開』『外部確認』『規格適合性チェックリストの導入』などの仕組みを導入しています。内部監査員の力量を図るために、設問を作り、セルフチェックを進めています。規格に要求された60の要求事項を各部門ごと、セルフチェックを行うための規格適合性チェックリストを作りました」。

内部監査員の力量評価	
各設問5点満点で自己評価。一般:60点以上、主任:75点以上	
要求理解 20点	①ISO14001の規格要求事項の意図を理解 ④基本的な環境法規制を理解...
監査手法 30点	⑥客観的な監査証拠を収集できる ⑦環境影響や情報の重要性を判断できる...
技術 25点	⑧環境問題や環境影響を一般職員に説明できる ⑨監視測定技術について理解している...
資質 25点	⑩論理的思考で適確な結論判断ができる ⑫公正、正確、誠実、分別のある行動をしている...

「自己宣言で大事なポイントは責任主体。自己適合宣言書の発行 第1者、2者、3者いずれかの監査を実施 適合を確認するための手順を持つ、4点です」。

自立と誠実性 自己適合宣言は日本の文化

「我が国には、里山の入会林で、木材・堆肥・山の幸などの限られた資源を共有するような、協調、共存、嘘をつかない相互信頼の文化がありました」。

「牧草地で飼える牛の数は、牧草の生産量から限界がありますが、共有者の一人が『自分一人くらいならば大丈夫だろう』とこっそり牛を増やしました。このことを知った共有者もこっそり牛を増やした結果、牛は牧草の芽や根まで食べ尽くして、再生産のできない不毛の土地になってしまいました。(コモンズの悲劇：西洋の教訓)」

「自己適合宣言は、日本の歴史文化や風土ならではの取り組みです。自らせんとす『むとす』という自立の志を掲げた中信州の地は、自己適合宣言にふさわしい地域です。『偽』に象徴される食品の安全性が話題の昨今。自己適合宣言のキーワードは『自立』と『誠実性』、そして『自己適合宣言を支える地域社会の存在』です」。

「自然災害やテロなど、予期せぬ事態が発生したときでも、ビジネスを継続できるようにする行動計画、BCP(Business Continuity Plan)。事業所に定められているBCP計画づくりを中小企業庁では、外部審査ではなく同庁HPに、事業所自らが登録することで適合を認めています。自己適合宣言の取り組みをぜひ広げていきましょう。たくさんのヒントをいただいた研修会でした」。



【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp

ISO14001自己適合宣言組織(2)	
◆民間組織(2007年6月時点)：約半数が認証からの移行	
01)中部電力 02)滋賀県立大学生生活協同組合 03)弘前商工会議所 04)ペインターかわさき 05)いであ 06)焼肉なべしま 07)タイヨウテック 08)滋賀モリフォーム 09)宮井 10)北陸電力 11)福岡なべしま 12)丸紅金属 13)エンプラス(工場以外) 14)向山塗料 15)ビッグファイブ 16)長野県信用組合 17)沢根スプリング 18)桂産園 19)エコフロント西部 20)上田信用金庫 21)長野県連合会費東 22)岩本リサイクルセンター 23)川幸産業 24)岩田組 25)カッパハウス・ビリーホー 26)ふげん発電所 27)三六組 28)大一食品	





マイバック持参の取組みも 京都議定書記念一斉行動に あなたも参加しませんか

05年10月、ノーマイカー推進月間「家族で地球環境問題について話し合いました」、1,426人参加。06年5月、エコドライブ推進月間「いつも燃費を確認するようになりました」、6,193人参加。06年10月、エコドライブ推進月間「家族に取組みを広げました」、9,156人参加。07年2月16日、京都議定書発効記念一斉行動ノーマイカー通勤&ライトダウン「自分自身の生活スタイルを見直すきっかけになりました」、5,636人参加。07年6月、環境の日記念一斉行動週間エコドライブ&ライトダウン「3日間全店舗で、営業用のネオンと水銀灯を消灯しました」、13,485人参加。07年10月、生活と環境まつり一斉行動週間エコドライブ&ノーマイカー通勤&ライトダウン「キャンドルを灯して家族で夕ご飯を食べました」、54,732人参加。

地域ぐるみ環境ISO研究会ではこれまで、機会あるごとに温暖化防止一斉行動への参加を呼びかけ、その都度多くの事業所の皆さんに参加いただき、取組みの輪が広がってきました。

2月13日(水)から19日(火)、京都議定書発効3周年を記念した一斉行動を行います。今回は「エコドライブ」「午後10時以降のライトダウン」に加えて、「マイバック持参でレジ袋削減」に取り組めます。

事業所、家族、個人など、どなたでも参加できます。地球温暖化防止に向けたあなたの参加をお待ちしています。



詳しくは研究会事務局までご連絡ください。
(飯田市役所内 22-4511 内線 5245 ic1267@city.iida.nagano.jp)

南信州いむす21学習会も 温暖化防止エコセミナー

2月25日(月)飯田合同庁舎で、「南信州・地球温暖化防止エコ推進セミナー」が開催されます。主催は南信州15市町村、南信州広域連合、八十二銀行、飯田信用金庫、南信州おひさま進歩、下伊那地方事務所。

第1部「映画『不都合な真実』上映会」。第2部「COP13参加報告」。第3部「南信州地域のエコ推進事業の報告」。第4部再び「映画『不都合な真実』上映会」。4部構成で行われます。



このうち第3部、第4分科会のテーマは「環境に配慮した事業所における取組み～環境マネジメントシステム『南信州いむす21』に取り組もう」。コーディネータを私たち研究会が担当し、参加者が自らの事業所の取組み目標を構築してみる、実践的な講座を計画しています。

第3部は4つの分科会ごとにワークショップ方式で進められます。第1分科会は「カーボンデモクラシーからCO2削減を考える」。120自然塾代表の杉原五雄さん、渋谷区職員の松島範行さんがアドバイザー。第2分科会は「食と農業からのCO2削減を進めるために」。アドバイザーはNPO法人環境・持続可能社会研究センターの佐久間智子さん。第3分科会は「温暖化防止の視点から地域観光を考える」。コーディネータは松本大学の佐藤博康さん。魅力的なテーマ・講師が並びます。

参加費無料、事前申込み不要。問い合わせは下伊那地方事務所環境課(53-0434)または南信州広域連合事務局(53-7100)まで。

飯田子ども環境会議 2月23日竜丘公民館で開催

子どもが誰でも参加できる環境活動クラブ「子どもエコクラブ」。2006年度現在、全国で4,819クラブ、137,532人が参加しています。

飯田市内で活動する子どもエコクラブが一堂に会する「飯田子ども環境会議」が行われます。

2月23日(土)午前9時から12時30分まで、会場は竜丘公民館です。

9時から環境をテーマに京都を拠点として活動を進める人形劇団「エコネコ座」による「人形劇とマイバックづくり」。

10時30分からは旭硝子ガラスカンパニーによる「ガラスの出張授業」。同社は2007年10月まで、全国の避難指定箇所に防災ガラスの寄付を行う「10×10プロジェクト」を実施。同社HPの会員になると、HP指定ページをワンクリックするごとに、防災ガラス10cm²の権利を獲得。クリック数が2万回を越えた都道府県の施設に防災ガラスを寄付をするというユニークなキャンペーンです。ガラスを使った安全・温暖化・防災をテーマとした出張授業も積極的に進めています。



エコクラブの子どもたちによる活動発表も行われます。どなたでも参加できます。申込み締め切りは14日(木)まで。問い合わせは飯田市役所環境課(22-4511)へ。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



ストップ温暖化全国大会 県代表で研究会が参加

「皆さんが地域で進める取り組みを、国全体に広げていきたいと思えます。そして日本発世界への取り組みへと広げることができなれば、地域でCO2削減に取り組む皆さんの熱意に報いることにもなるでしょう。この大会を新たなネットワークの機会として、温暖化防止の活動が横につながる貴重な機会となることを期待しています。」



2月9日(土)10日(日)、東京・丸ビルホールで、ストップ温暖化「一村一品」大作戦全国大会2008が行われました。主催はJCCCA全国地球温暖化防止活動推進センターです。冒頭は鴨下一郎環境大臣のあいさつです。



9日(土)は、全国1047の参加団体から選ばれた、47の都道府県代表による持ち時間4分のプレゼンテーションが行われました。

すでにJCCCAのHPでは、1月末までインターネット投票も行われ、事前に届け出た審査書類を合わせて、審査は行われました。

「なんでも開運探偵団」で知られる中島誠之助さんが審査委員長です。



地域ぐるみ環境ISO研究会のプレゼンターは、オムロン飯田(株)実務者の吉川瞳さんです。

研究会からのメッセージ 一斉行動の取り組みから

私たちの研究会は97年、COP3 京都会議が開催された年と同じ年に発足しました。地球環境問題の解決と、事業活動の発展の両立を目指して、事業所の枠を超え「地域ぐるみ」で環境改善活動を行う、ボランティアな組織です。



環境活動は、事業所という「点」で行うのではなく、地域や市民といった「面」で行わなければ問題解決になりません。私たちは、地域全体のレベルアップを狙って、ISO14001を簡単にした「南信州いむす21」というしくみを構築し、中小企業へ環境改善活動の普及や支援を行っています。また、里山の保全活動や、どんぐりを使ったクラフト細工体験、将来を担う幼稚園や学生達に環境教育などを行ってきました。

さらに、京都議定書の締結を契機として、活動を従業員とその家族に広めるために、温暖化防止の一斉行動を仕掛けてきました。

地球温暖化防止の一斉行動は2005年10月に開始、環境の日や京都議定書発効日といった記念日に合わせて、これまでに7回実施してきました。現在8回目の取り組み真最中です。車に依存した生活を送っている私たちが、まず取り組みやすいノーマイカー活動から始め、エコドライブ、ライトダウン、ノーレジ袋と、回を重ねる毎に取組内容を広げています。取組事業所も飯田市から始まり現在では南信州全域に広がっています。参加者もこのように徐々に増えて、この地道な活動が地域全体に根付いてきています。

南信州発世界へ 環境意識を変えていく

参加者の中には、家族全員で環境問題について話し合って、「暮らし」そのものを見つめ直すことが出来た、という方もいました。

この活動で最も優れている点は、この温暖化防止活動が無限に広がっていく期待と可能性があることです。南信州全域に浸透しつつあるこの活動が、長野県、日本、そして世界に広がる期待。企業の一員としての取り組みが、家族全員、学校や地域へ広がる可能性。そして、一人ひとりの環境に対する想いが無限に広がり、それが更なる行動を起こさせる。そんな願いが今、現実になりつつあります。地域ぐるみ環境ISO研究会は、これからも、地球温暖化防止に向けて機会あるごとに一斉行動に取り組みます。

皆さんも一緒に取り組みましょう！



最優秀賞は京都府の高校生

審査の結果、最優秀賞は京都府立北桑田高等学校森林リサーチ科の生徒たち。テーマは「地元の木を使って『ウッドマイレージを減らそう!』」。私たち研究会は、おしくも選にはもれましたが、終了後には参加団体が交流するレセプションに参加。新しい交流の環を広げる機会をいただきました。



【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



JAB/環境ISO大会で研究会の取り組みが紹介

「環境マネジメントシステムは、あらゆる組織で適用させることができる規格です。一方環境問題は、ある組織で生まれた問題が、組織を越えて地域や社会に広がることがあります。原材料の調達から廃棄・再利用まで、製品の一生をつなげたライフサイクルアセスメント。企業活動同士を物流でつなげたサプライチェーン。環境マネジメントシステムでは以上のような視点から、組織を越えた環境問題への取り組みも広がっています。けれども環境問題はそれらを越えた、地域や社会への広がりを考えた視点が必要です。環境コミュニティは、同じ地域に居住する組織が企業市民として、環境を軸に結びついた共同体。私たちのグループは環境コミュニティの意味や必要を、地域ぐるみ環境ISO研究会を先進的なモデルと捉え研究を進めました」。

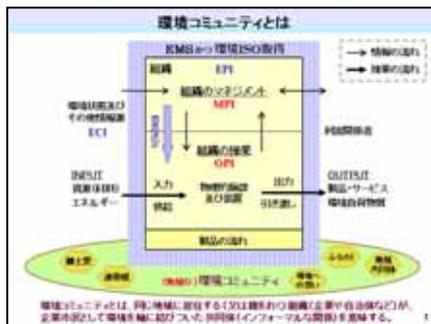
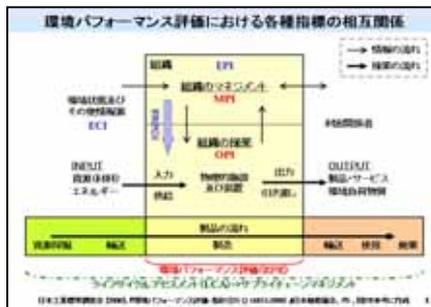


2月15日(金)有楽町朝日ホールでJAB/環境ISO大会が行われました。今年のテーマは「持続可能な社会の実現に向けて～環境ISOの役割」。冒頭はWG1主査で、新日本監査法人の倉光豊さんの発言です。

JABでは毎年ISO14001の現状や課題を研究し提言を行うことを目的に、ワーキンググループ(WG)を組織。本年度組織された3つのWGのうち、WG1のテーマが「環境パフォーマンス向上のための環境コミュニティの役割」。私たち研究会の取り組みが着目されました。

地域ぐるみの活動の意味 拡大、上向き、そして統合

「企業が発展するための条件は、企業の人材リソースである地域のポテンシャルを高めること。企業と地域の発展には、相互関係があります。地域ぐるみ環境ISO研究会の活動も、企業の点の取り組みを、地域の面の取り組みに広げ、環境面から地域のポテンシャルを底上げしています」。萩本範文研究会代表の発言も、DVDで紹介されました。



「地域ぐるみ環境ISO研究会の活動に見られる環境コミュニティには、3つの役割があります。組織やサイトの壁をつなぎ、一斉行動などの取り組みを通し、1組織では実現できない高い目標に取り組むことのできる『ベクトルの拡大：範囲の経済性を高める効果』。地域ぐるみで取り組むことで社会的評価を高め、組織の活動を家庭にまで広げたり、参加者同士が協働で競いながら取り組みを広げる『ベクトルを上向きに：社会化を向上させる効果』。地域ぐるみで取り組むことで、環境ISOを事業経営と分離させない『ベクトルあわせ：規模の経済性を高める効果』です」と倉光さん。

中小企業への普及のために

「国際規格のISO14001をはじめとした、EMSに取り組む組織の広がりが鈍っています。『取り組みのメリットが見いだせない』『コスト・労力がかかる』『用語や運営方法がわかりにくい』。特に課題とされる中小企業への導入を阻んでいる3つの理由です。EMSの本質や基礎理念を学ぶ『EMS研究会』の開催、多様に存在するEMSに取り組む組織が交流連携する『EMS認証団体交流会』の開催を提案します」。WG2の研究テーマは「EMS普及促進のために」。主査で千葉大学伊藤佳世さんの発言です。

MSの統合に向けて

「受審側は、EMSがどれくらいパフォーマンスの向上に貢献するかが一番の関心事です。これに対して審査機関は規格への適合性を第一に捉える傾向があります。受審側と審査側、ニーズのマイナスの相関関係です。またEMS、QMS、OHSASなど、経営に必要なMS制度は、経営視点から一体とされることが望まれます。統合的な審査を行うことができるようになるために、取り組み組織、審査員、認定機関のレベルアップと変化が必要です」。WG3の研究テーマは「マネジメントシステムの統合に向けて」。主査で、ペリージョンソンレジストラ(株) 國富佳夫さんの発言です。

大会冒頭では経済産業省大臣官房審議官、廣田恭一さんの「地球温暖化対策とISO14001」、環境省大臣官房審議官、石野耕也さんの「21世紀環境立国戦略と環境行政の課題」、2つの記念講演も行われました。

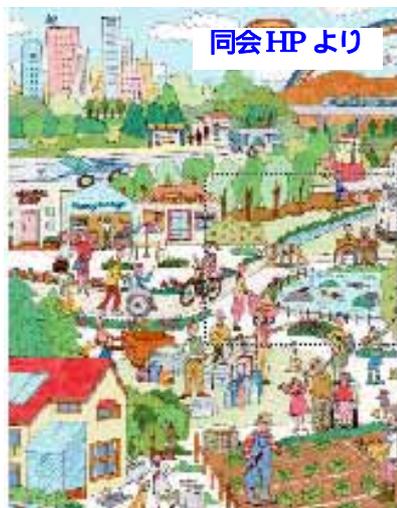
栄えある機会に取り上げられたことを励みとし、これからの研究会の活動の広がりが期待されます。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
 沢柳俊之(多摩川精機株式会社) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
 木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



環境文明 21 のお知らせ 環境と経済の統合セミナー

「私たち人類が生き、経済活動を営むための価値観をつくり直す」「新しい価値観を広げるための社会制度を提案する」「新しい環境技術を応援する」環境文明 21 は、1993 年誕生した NGO、環境と経済が両立した、グリーン経済社会をめざしています。代表は環境庁初代地球環境部長の加藤三郎さん。



21 世紀の街ってこんな街？ 街には4つの会話がかくされているよ。探してみよう！

3月14日(金)午後1時30分から5時まで、東京都南部労政会館で、「環境と経済の統合～企業会員セミナー」が行われます。

「あいさつと趣旨説明」(加藤三郎氏)、「環境と経済の統合について～温暖化防止の観点から」(国立環境研究所、増井利彦氏)、「環境と経済の統合についてのアンケート結果から」、「参加者による意見交換」が内容です。

参加費は会員 1,000 円、会員以外は 5,000 円。

申込み 3月12日(水)まで。申込み問い合わせは同会事務局まで。Tel 03-5483-8455、e-mail goto@kanbun.org。

これから家を創る人へ エコハウスセミナー

「家を建てるときに一番大切なのは、家族がずっと幸せに暮らせる場所になる家づくり。誰もが快適に、楽しく暮らせる家を建てたい、創りたい。そしてそんな家こそが地球環境にとってもやさしい家になるはず...」。



3月2日(日)午後1時30分から3時30分まで、かざこし子どもの森公園で、家族と環境にやさしいエコハウスセミナーが行われます。主催は飯田地球温暖化防止地域協議会。テーマは「これから家を創るひとへ～私の快適環境が地球の快適」。

講師は善養寺幸子さん。善養寺さんは一級建築士、オーガニックテーブル(株)代表。環境省「環の国くらし会議メンバー」、同省「都市緑地を活用した地球の熱環境改善構想検討委員」です。

申込み問い合わせは飯田市区所環境課内、協議会事務局まで tel22-4511 内線5249

e-mail ikankyo@city.iida.nagano.jp

自然エネルギーツアー 参加者募集中

化石燃料エコハウス「風の学舎」かぐらの湯「バイオマスボイラー見学と入浴&昼食」天竜峡温泉交流館「ペレットボイラー見学」南信バイオマス協同組合「ペレット製造工場見学」。

3月16日(日)市内の自然エネルギー施設をめぐるツアーを行います。かぐらの湯では入浴も予定しています。主催は飯田地球温暖化防止地域協議会。参加費は大人3,000円、高校生以下2,000円。定員25人。ご家族友人お誘いあって、環境にこだわった春の一日を過ごしませんか。申込み問い合わせは協議会事務局まで。

身体は地球からできている 佐治晴夫博士講演会再び 国連大学ZEF in いいだ

「7,500 万年前から地球に生息している鯨は、自らの鳴き声で、人間が生み出したソナタと同じ法則の音楽を奏でています。音は根源的なもの。音楽は音を論理的に組み合わせられて作られています。太陽系外惑星探査機ボイジャーに、バッハの平均律を搭載する提案を行ったのは、音楽には言葉を越えたコミュニケーションがあるからです」。(佐治晴夫講演会「宇宙の響き」より)

3月20日(木)午後1時から4時、飯田市公民館で国連大学ゼロエミッションフォーラム(ZEF) in いいだが行われます。



テーマは「身体は地球(ほし)からできている」。記念講演は鈴鹿短期大学学長の佐治晴夫さん。佐治さんは10月26日竜丘公民館で行われた映画「地球交響曲」上映会でも講演。

ゼロエミッションとは廃棄物ゼロのこと。国連の機関で唯一日本に本部を置く国連大学では、持続可能な循環型の地域づくりを地域から進めるため、全国各地で国連大学ZEFを開催中。

当日は、ZEFプロジェクトアドバイザー坂本憲一さんが基調提案。飯田在住の笛奏者雲竜さんによる演奏会も行われます。

参加費は大人1,000円、高校生以下500円。主催はSTELA WINDOW、国連大学ZEF、飯田市。チケット販売、照会は飯田市役所環境課まで。

Tel 22-4511 内線5245

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精織株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



未来を担うのは私たち 竜丘で飯田こども環境会議

「私たち、南信濃みどりの少年団は、みどりを育て、守り、広めるとともに、ごみをむやみにすてないよう川や山の自然を大切にしていこう活動をこれからも続けていきます」。

2月23日(土)竜丘公民館でこども環境会議が開催されました。冒頭は会議に参加した「南信濃みどりの少年団」の皆さんによる、環境宣言です。

こども環境会議は今年で5年目。南信濃みどりの少年団、飯田こども未来館、ジュニア環境チェッカーらあわせて45人の子どもたちが参加。

一人ひとりの気持ちを込めて マイバックづくり

オープニングは京都の人形劇団「エコエネ座」による人形劇。

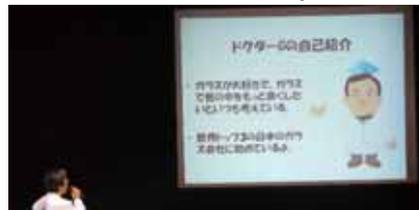


「ペットボトルの代わりに水筒、レジ袋の代わりにマイバック」。エコネコ座の呼びかけでマイバックづくりに挑戦。地球、森、エコカーなど、参加者一人ひとりが環境への思いを込めて、世界で一つだけのマイバックを作りました。



エコガラスで節約を ドクターGのガラス講座

「ガラスの誕生は今から5,000年前、メソポタミア文明時代に生まれました。昔は貴重な宝石として扱われていましたが、今は私たちの暮らしの至る所で使われています」。世界第3位のガラスメーカー、旭硝子(株)社員の皆さんは、全国の学校に防災ガラスを寄贈するガラスパワーキャンペーンを進めています。ドクターGのガラス講座はそのキャンペーンの一環です。



「暑さや寒さを和らげるエコガラスは地球温暖化防止にもつながります」。実際に比較のためにさわらせていただきました。



「普通のガラスは衝撃に弱く、割れると大変危険です。車のフロントガラスなどに使われる強化ガラスは細かく割れることで人を傷つけない構造です。ガラスの間にプラスチックがはさまれた、防災ガラスは割れても破片が飛び散りません」。実際に行ったガラスの破壊実験で、その違いを実体験。



南信濃みどりの少年団 こどもエコクラブの発表も

「私たちは、環境のことを考えて3つの活動を進めています。それは花を育てる活動、遠山川をきれいにする活動、森林のことを知る活動です」。環境活動発表では、南信濃みどりの少年団が自分たちが進めている活動を紹介。



同少年団は環境省が応援するこどもエコクラブの一つです。平成18年度は全国で4,819クラブ、137,532人の子どもたちが登録。飯田こども未来館、山本小学校6年1組エコレンジャー、龍江小学校5年生龍江エコクラブ、ジュニア環境チェッカー、飯田仏教保育園、エコライフ八幡ファミリー、飯田市内では現在7つの団体が登録しています。

会場にはこどもエコクラブのイメージキャラクター「エコまるくん」も登場。大人気のエコまるくん、周りにはいつも子どもたちの人だかりでした。



見て、感じて、楽しみながら学んだ1日でした。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川(株)精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



EMSの新しいつながり 県自治体EMSネット発足

「昨年度から上田市、小諸市、千曲市、東御市4市で地域ネットワークをつくり、相互内部監査や研究会、群馬県太田市への合同視察を進めています(上田市)。「塩尻環境スタンダードという独自EMSを構築し、市内事業者者に提供をしています(塩尻市)。「本来業務に力を入れるために、4月からは行政マネジメントシステムと名称を変えて取り組みを行います(小諸市)。「2006年3月、全国の自治体ではじめてエコアクション21の認証取得を受けました(箕輪町)。「市内事業者15社で、環境ISOネットワークを構築しました(東御市)。「次回更新に向けて、認証登録と自己適合宣言方式双方を検討中です(長野市)。

2月20日(水)長野県と13市町村が参加して、第1回環境マネジメントシステム自治体ネットワークが開催されました。



県内自治体で環境マネジメントシステムの取り組みが始まったのは2000年。8年間が経過した現在、各自治体とも試行錯誤しながら工夫した取り組みを進めています。「合同でシステムの運用や規格の解釈の研修会を行いたい」「相互内部監査のネットワークを広げたい」これからのネットワークの進め方に対する期待する意見交換も行われました。

長野市からは独自に開発した、県内自治体であれば活用できる、温室効果ガス排出量の計算ソフトを紹介。環境とEMSをキーワードとした自治体交流。今後の活動が期待されます。

温暖化防止、 世界の動向を知る 南信州エコ推進セミナー

「IPCCは、温暖化による影響を最小限に抑えるためには、温室効果ガスの排出量を、2050年までにピークの半分に抑えることが必要であると勧告しています。COP13では、今年第一約束期間を迎えた京都議定書の次の目標を2020年に定め、先進国全体で25%から40%の削減を行う方向で話し合いが進められています」。



2月25日(月)飯田合同庁舎で南信州・地球温暖化防止エコ推進セミナーが行われました。

冒頭はNPO法人環境エネルギー研究所副所長、大林ミカさんのことばです。大林さんは環境NGOの立場で、国連気候変動枠組み条約第13回締結国会議(通称COP13)に参加。地球温暖化防止に向けた世界最新の動向を報告いただきました。

「京都議定書を批准していないアメリカですが、カリフォルニアでは2050年までに80%の削減をめざしています。50州のうち40州は、排出量削減の目標を定めています。京都議定書の対象とならない中国やインドでも、削減に向けた取り組みは着々と進んでいます。むしろ日本は遅れています。南信州飯田には、カリフォルニアのような先進都市となることを期待しています」。

「市田柿の製造過程ではカビの発生を防ぐための冷蔵庫が必要となっています。南信州の地にも温暖化は確実に進行しています」。NPO法人おひさま進歩事務局長の原亮弘さんは、南信州の温暖化の状況と、温暖化防止を進める取り組みを報告。



南信州いむす21、実践的な学習会も行われました

「仕入れや発送に使うダンボールを、プラスチック製にして連続して使うことを考えました」。セミナー後半の分科会では南信州いむす21の学習会も行われました。冒頭は研修会に参加した、かぶちゃん農園(株)南隆昭さんの発言です。分科会ではグループごとの話し合い方式で、自分の組織の目標づくりに取り組んでみました。



「モーターボートを製造する当社は、省エネルギー法の第一種エネルギー管理指定工場です。廃棄物の削減や再利用に取り組むほか、モーター燃費の向上など環境配慮の製品づくりを目標としました(トーマツマリーン(株)竹下浩二さん)。「電気使用量を抑えるために、PCの主電源を落としたり、残業をしない日を定めることを考えました(高森町)。

多彩な顔ぶれの参加者ですが、環境を共通の話題とすることで、いろいろなアイデアが生まれました。

「南信州いむす21に取り組むことで、庁舎から出るごみは確実に減りました。環境マネジメントシステムは特別に難しい取り組みではありません。まずは取り組んでみることです。すでに取り組みを進めている松川町役場からの参加者の発言です。

まずは始めてみませんか。南信州いむす21についての問い合わせは、南信州広域連合事務局または研究会まで。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



96事業所の参加で28.0t 京都議定書一斉行動

「難しい目標をたてず、日頃何気なく行っていることから改善することが、地球温暖化防止への第一歩であると感じています」「自分の財布に優しいことは地球にも優しい。家族への優しさは地球にも優しい」「美しい日本の四季を未来まで!」「子どもや子孫の住む環境のために、多少は利便性を我慢することが必要です。利便性ばかりを考えず、昔の生活の良いところを取り戻す必要があるのではないのでしょうか」。

2月13日から19日にかけて、京都議定書発効3周年を記念した一斉行動が行われました。冒頭は今回参加いただいた皆さんから寄せられたメッセージです。

今回は96事業所、のべ41,689人の皆さんに参加いただきました。また3月1日(土)には、ABNで特集「信州産エコパワーを世界へ」が放映。研究会の活動が紹介されました。

本を読む時間ができました ノーマイカーに9,222人

「JRを利用して通勤することで本を読んだり考え事をする時間ができました」。番組で紹介された飯田市役所、熊谷裕美さんのことばです。熊谷さんは平岡から飯田までJRを利用して通勤しています。



「毎週金曜日をノーマイカーディとして取り組んでいます」「休日は徒歩で買い物をしています」。ノーマイカーの取り組みには、9,182人が参加、のべ20,3tの削減効果につながりました。

日頃から心がけています ノーレジ袋に18,440人

「日頃から買い物にはマイバックを使うよう、心がけています」。同じく番組で紹介された南信共同アスコン(株)の唐沢節子さんはキラヤ黒田店で買い物。

キラヤは全店舗でマイバックの取り組みを進めています。マイバックやかごを持参した利用客には500円ごとに5円相当のポイントを還元。マイバックの持参率は5割を超えています。



「従業員全員にエコバックを購入配付して、買い物時に使用するよう呼びかけました」「家族にもマイバックを配り、レジ袋を使わないようにしています」。今回初めて取り組んだノーレジ袋の取り組みには、18,440人が参加、0.1tの削減効果につながりました。

家族がキャンドルで食事 ライトダウンに14,027人

「キャンドルでの夕食は、子どもたちにとってもとても楽しい経験になりました」。多摩川精機(株)の杉山隆英さんは番組で、2人のお子さん、奥様と4人とキャンドルで夕食。



「節電タップで主電源を切るようにしました」「本店屋上看板の消灯時間を、2時間短縮しました」。10時以降のライトダウンには14,027人が参加、7.5tの削減効果につながりました。

これからも広げていきたい 取り組みです

「今年の寒さは厳しいですが、重ね着、防寒肌着、湯たんぽなどで室内温度を低くしています」「会社全体でマイボトルの取り組みを進めています。60%の従業員が自宅からお茶を持参しています」これからも広げていきたい取り組みです。

*今回参加いただいた皆さん(順不同、敬称略)
(株)アイスクアザールレミックス(株)飯田家畜保健衛生所/飯田教育事務所/飯田工業(株)飯田クリーン(有)飯田合同庁舎福利組合/飯田建設事務所/飯田精密(株)飯田保健所/磯村裕子LPガス協会/火薬協会/NSKマイクロプレジション(株)松川工場/勝間田建設(株)カムテック(株)カリス/桐林クリーンセンター/技建開発(株)緑光精機製作所/飯田工場/県商工連合会南信支所(株)三和精機/下伊那郡岡村会事務所(株)シーテック長野支社飯田支店/下伊那県土木技術センター組合/下伊那地方事務所/信州航空電子(株)下伊那農業改良普及センター/本印刷(株)瀬川脳神経外科/南信州(株)ダイヤル(有)竹原重送店(株)TACK/田中精機(株)多摩川精機製作所/飯田工場/県商工連合会南信支所(株)多摩川テクノクリエーション(株)多摩川ロジステック(株)財)中部電気保安協会飯田事業所(有)天平(株)天龍/東興興業(株)中村(社)長野県林業コンサルタント協会/南信労政事務所飯田駐在(有)野中製作所/戸ハイテック(株)富地工場/福岡清掃事業所(株)平安/平和精密(株)川町役場/マツカワモーターロニクス(株)松島産業(株)第二工場/マルビ(株)丸宝計器/ミヤママイクロテック(株)ミナミ(株)南信州エコハウス/南信州公域連合事務所/宮口屋(株)山岸エーアイシー/ヨコタ(株)ヨシカス/龍共(有)印刷(株)林業公社/山形協会/レムキャスト(有)林精水(有)アイエス精工/旭松食品(株)アース・グリーン・マネジメント/飯田市役所/飯田商工会議所飯田信用金庫/坪井設備工業(有)エコトピア飯田(株)オムロン飯田(株)化成工業(株)木下建設(株)光栄和神建設(株)シズン/平和印刷(株)信南サービス(株)タカモリ/多摩川精機(株)トーエネック飯田営業所/中部電力(株)長野支店飯田営業所/TDK飯田(株)夏目光学(株)南信共同アスコン(株)原鉄(株)十二銀行飯田支店/東日本システム建設(株)飯田支店(株)マエダ/三菱電機(株)中津川製作所飯田工場/和産業(株)吉川建設(株) (有)森脇精機

あなたのお金が社会を変える 末吉竹二郎氏講演会

3月14日(金)午後2時、飯田市鼎公民館で温暖化防止ファンド説明会が行われます。説明会にあわせて末吉竹二郎氏の講演会が行われます。テーマは「あなたのお金が社会を変える」。末吉さんは国連環境計画(UNEP)金融イニシアティブ顧問。TBSブロードキャスターなどに出演、コメンテーターとして活躍中です。問い合わせはおひさまエネルギーファン(株) tel 56-3710まで。



【ご意見、お問合せ】(配信解除)
沢柳俊之(多摩川精機(株)) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



あなたのお金が社会を変える 末吉竹二郎氏講演会より

「自然豊かな飯田市ですが、その恩恵にあずかることができるのは、先輩世代のおかげです。『地球は親からもらったものではありません。子どもたちから預かっているものなのです』アボリジニのことばです。持続可能な社会とは、現代世代と将来世代の公平を求めた考え方。これからの社会を考える基本です」。



3月14日(金)県公民館で、温暖化防止おひさまファンド説明会が行われました。説明会にあわせて末吉竹二郎さんの講演「あなたのお金が社会を変える」が行われました。末吉さんは国連環境計画金融イニシアティブ特別顧問で、内閣府「地球温暖化問題に関する懇談会」のメンバーでもあります。冒頭は末吉さんのことばです。

「金融機関は、貸し手の立場から責任ある環境管理と社会的に責任ある開発を推進することができます。同原則に沿った環境社会配慮が行われる見込みのない案件には融資しない」。2003年国際金融公社(IFC)が策定した自主協定、赤道原則の前文です。国内でもみずほコーポレート銀行、三菱東京UFJ銀行、三井住友銀行が採択、全世界で50を越える金融機関が参加しています。途上国で行われる1件500万ドル以上のプロジェクトに適用されています。

「金融とは、社会のお金の流れを仲介する仕組み。個人や企業のお金を預かり、事業や個人、企業に融資する銀行は間接金融。投資は、社会が直接社会のお金の流れを決定する仕組みで、直接金融ともいわれます。お金の動きが変わりつつあります」。

地球環境問題は私たちの 長期にわたる生活保障

「皆の蓄えたお金を社会のために使うことが、自分たちにも返ってきます。国際的に年金基金の運用が、再生可能エネルギーなどの開発や生産に対して投資されるようになってきました。目先の利益だけではなく、20、30、40、50年先という長期にわたる生活の保障を考えれば、当然必要な視点です」。



「2006年4月、当時の国連アン事務総長は、責任投資原則を発表。世界の機関投資家に対して、投資を判断する際に、環境、社会、ガバナンスという要素を反映させようという内容です。現在300機関、1,400兆円の資金を擁する機関投資家が、この考え方に賛同しています」。

「アメリカの大手銀行シティグループ、JPモルガンチェース、モルガンスタンレーは、2008年2月炭素原則を発表。石炭火力発電所には厳しい融資基準を課し、省エネ新エネに投資を行うためのガイドラインです」。

「ロンドンでは今、街中に入るためには『渋滞税』を8ポンド、日本円にして約2,000円支払う制度があります。もうすぐ25ポンドに改定予定です。ただしエコカー所有者には課されません。CO2を排出するのは悪いこと、損をする、罰せられる。CO2を減らす良いこと、得をする、ほめられる。そんな価値観の変化を進めるための取り組みが起りつつあります」。

地球温暖化防止に向けた大きな流れが動き出しています。

南信州から始まる 温暖化防止の動きを世界へ

「『最後の木が死に、最後の川が毒され、最後の魚を採ったとき、人はお金を食べられないということに気づくのだ』。19世紀アメリカ先住民のことばです」。

「ドイツでは国民全体から集めたお金を活用し、風力発電や太陽光発電など、再生エネルギーを普及するためのしくみづくりを行うことで、温室効果ガスの排出の大幅削減に成功しています。太陽光発電普及率が国内トップレベルの南信州飯田。市民一人ひとりの参加と行動で、南信州飯田から地球温暖化防止のうねりを生み出しましょう」。

おひさまファンドについての照会は、おひさまエネルギーファンド(株)まで。

<http://www.ohisama-fund.jp/>

国連大学ZEF in 飯田 3/20佐治晴夫氏を迎えて

「みどりの地球を次世代へ」(国連大学 坂本憲一さん)、「笛演奏：地球のかけらまの響き」(笛奏者 雲竜さん)、「からだは星からできている」(鈴鹿短大学長 佐治晴夫さん)。3月20日(木)午後1時から4時、飯田市公民館で国連大学ゼロエミッションフォーラム「からだは地球(ほし)からできている」が行われます。

佐治晴夫さんの講演会は、ピアノの演奏や宇宙の音なども織り交ぜた魅力的な構成です。参加券大人1,000円、高校生以下500円は、当日会場でも購入できます。地球環境問題についてご家族で考えてみませんか。

問い合わせは、市役所環境課まで(tel 22-4511内線5245)

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp





飯田発の行動を世界へ 国連大学ZEF in いっす

「1991年秋、当時小学校6年生の坪田愛華さんは、2ヶ月をかけて漫画『地球の秘密』を書き上げました。そしてその数時間後突然の脳内出血で倒れて他界。両親の手でまとめられた遺作は、世界中の子どもたちに感銘を与え、国連環境計画グローバル500賞を受賞しました。ゼロエミッション、エコタウン、3Rなども、日本から発信したアイデアです。持続可能な社会をつくるために、ぜひこの飯田の地から行動をおこし、それを日本や世界に広げていきましょう。」



3月20日(日)飯田市民館で、国連大学ゼロエミッションフォーラム(ZEF)が行われました。テーマは「からだは地球(ほし)からできている」。冒頭は、国連大学ZEFプロジェクトアドバイザー、坂本憲一さんのことばです。

「江戸時代は循環型の仕組みができていました。当時と現代には、大きな文化の違いがありますが、現代に活かすことのできる知恵もたくさんあるはずです」。「衣：着物は簡単な縫製で作り替えも簡単。使えなくなったら古着市場に出しました」「食：旬のものを材料に少しだけつくり残しません」「エネルギー：炭、薪、蝋燭など再生可能なエネルギーを節約して使用、歩くことが基本で身の回りで用を足していました」。当時は自然との共生やもったいないという考え方が、省エネルギーの暮らしを支えていました。

「恵まれた自然、優れた伝統と文化、勤勉・先進性・学びの文化という風土によって世界に発信する環境モデル都市、南信州飯田となることを期待します」。熱いエールをいただきました。

からだは星からできている 佐治晴夫氏講演会

「動物に手足ができたのは、地球に星がぶつかったからです。大きな星が地球にぶつかり、その衝撃で海の水が熱せられて無くなります。魚たちのひれは、移動のために手や足に進化していくのです。地球に四季があるのは、大きな星がぶつかって、地球の自転軸が傾いたから。そして世界で一番豊かな四季を楽しむことができるのは我が国日本です。世の中の様々な現象は皆、宇宙論からひもとくことができるのです」。



記念講演は鈴鹿短大学長で、理論物理学者の佐治晴夫さんです。講演会に先立って、飯田在住笛奏者の雲龍さんによるミニコンサートも行われました。演奏の最後には、佐治さんのピアノと雲龍さんの笛による、コラボレーションも行われ、いつもの講演会とは違うオープニングとなりました。



「今日のテーマはエコロジー、狭い意味では自然環境の保護を意味します。川岸を浸食から守るために行う護岸工事は、一方で自然に破壊ももたらします。保護と破壊、あるいは創造と破壊は表裏一体のもの。それらのバランスをどう取り持つか、持続可能な社会をつくるために必要な考え方です」。

同じ方向を向きながら 夢を持って第一歩を

「地球や太陽などの無生物と、動植物や人間などの生物は同じものから生まれました。そうであるならば宇宙のすべてのものは関わり合った存在です。紙は紙以外のものからできています。あなたはあなた以外のものからできています。すべてのものは関わり合いながら存在しているのです」。

「電気の量で考えます。宇宙の電荷、±のバランスはほとんど同じです。5%異なれば宇宙はあっという間に壊れます。宇宙が成り立つのは反対のものが仲良く共存しているからです」。

「地球温暖化は人類の生存を脅かすまでに至っています。私たちは危機感を共有しなければなりません。危機感を共有し続けるためには、立場や考え方が異なる人同士でも、同じ方向を見ていることが必要です。そのために必要なのは『エンパシー』。共感することのできる能力です」。

「1977年に打ち上げられた惑星探査機ボイジャーが太陽系の周縁に到達したときに地球を映した映像を見ると、危機に陥った地球を救ってくれる星はどこにもないということを実感します。けれども私たち人類には夢を持つ力があります。危機的な状況を乗り切るために、まず夢を持って第一歩を踏み出しましょう」。

考え方のヒントをたくさんいただくことができました。



【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



「学ぶ・知る」から 「行動と成果の時代」へ

多摩川精機株式会社
代表取締役社長 萩本範文

COP3 京都会議から、そして研究会設立から 10 年が経過しました。今年の年頭、私はある新聞社の取材で、今年をイメージする漢字一字を「緑」だと答えました。緑こそ我国の財産であり、緑を守ることが持続可能な社会をつくることだと思っているからです。環境は、学ぶ・知るの時代から、行動を起こし成果を出すことが求められる時代となってきました。事業活動（経済成長）と持続可能な社会形成の両立を目指して、皆で知恵を出し合い、地域ぐるみで環境改善活動を進めましょう。そして、研究会の活動が益々盛んになり、この南信州地域が活力と魅力にあふれる地域になることを期待してご挨拶とします。



自らの日常活動へ

旭松食品株式会社
本店総務部長 岡田宏

研究会発足当時はあまり一般的でなかった環境への取り組みも、10 年の歳月を経て大きな広がりとなって、まさに地域ぐるみで私達の身近な問題として捉えられるようになりました。今後は企業レベルの活動から、自らの日常行動として反映できるかが課題です。研究会のますますのご発展と皆様のご活躍を祈念致します。



常に時代の先駆けとして

飯田市長 牧野光朗

研究会が発足した 1997 年は COP3 京都会議が行われた年です。常に時代の先駆けとして、南信州の環境改善運動を牽引し、全国からも注目される存在となりました。研究会のますますのご発展を祈念いたしますとともに、持続可能な地域づくりのために、協働してがんばりましょう。



未来を創る活動

飯田信用金庫

専務理事 榊山俊彦

10 周年おめでとうございます。地域ぐるみ環境 ISO 研究会の活動は未来を創るものであり、企業や地域を越えた拡がりとう向上を期待しています。



エコの環を広げる

中部電力株式会社長野支店

飯田営業所長 北村栄市

研究会発足 10 周年おめでとうございます。当社も地球環境の保全を通して「持続的発展が可能な地域づくり」を目指します。企業も人も、出来ることから一つずつ実践し積み重ねることが大切です。研究会活動を通じて、さらに「エコの輪」を広げましょう。



次世代に渡すために

シチズン平和時計株式会社

常任監査役 伊藤俊一

10 周年おめでとうございます。この研究会を立ち上げて頂いた先輩の皆様方に感謝し、私たちは、この先駆的な研究会を次の世代に確実に渡すべく、より一層活動を強固にしていきたいと思えます。



環境の世紀のものづくりを

三菱電機株式会社中津川製作所

飯田工場長 白金義康

設立 10 周年おめでとうございます。弊社も、飯田の地に太陽光発電システム工場を設立して 10 年目に入ります。換気扇では省エネ商品の開発で、平成 19 年度省エネ大賞を受賞しました。研究会の一員として地域環境改善に取り組むとともに、創エネ・省エネ商品で環境の世紀にふさわしい物造りを進めてまいります。



取り組みの継続的改善を

株式会社

アース・グリーン・マネジメント

常務取締役 平栗秀信

地域ぐるみ環境 ISO 研究会設立 10 周年おめでとうございます。当社も 2002 年に ISO14001 の認証を取得して、この 4 月で 2 回目の更新審査を迎えます。ISO の取り組みと同じく継続的改善を進める上で、今後益々の研究会の発展を願います。



自社、地域、地球のために オムロン飯田株式会社 代表取締役社長 黒岩恒彦

地域ぐるみ環境 ISO 研究会発足 10 周年、心よりお慶び申し上げます。研究会の活動が、この 10 年で点から面へ広がり、研究会が行う「地域ぐるみの活動」がこの南信州にしっかり根付いてきているのは、参加企業・団体の皆様、実務者の方をはじめ、会を支えてくださった大勢の皆様のお陰です。当社でも、環境活動を社内だけでとどめるのではなく、地域へ貢献する必要性と重要性を認識し、それを実行する為にも、この研究会の存在は大きなものとなっています。自社の為、地域の為、地球の為に、これからも一緒に頑張りましょう。

美しい地球を未来に 株式会社八十二銀行飯田支店 執行役員支店長 小林亮夫

研究会発足から 10 年を迎えられ、心からお祝い申し上げます。地球の環境は今、世界規模で悪化の一途をたどっています。私たち一人ひとりが環境に関心を持ち、美しい地球を未来に残すため、今後も当研究会が核となり環境改善活動にご尽力されますことをご祈念いたします。

地球のためにできること 井坪設備工業株式会社 専務取締役 井坪正

地球のために出来ることからコツコツと少しずつ。これからも、いつまでも、いつまでも。



環境と経済の好循環で TDK 飯田株式会社 代表取締役社長 木下幸治

地域ぐるみ環境 ISO 研究会 10 周年おめでとうございます。この地域の各企業、家庭の環境保全への取り組み意識は高くなりパフォーマンスも高レベルで維持されていると感じています。研究会幹部・事務局の皆様の日頃のご努力と各会員の皆様の地域に寄せる意欲の高さの成果であると思います。これからは、快適性や経済性を維持向上しつつ地球環境改善に向けて省エネ・省資源化させることが大切だと思います。例えば、飯田の道を走ると燃費が良くなるし、飯田を通ると大都市間の物流による CO2 発生量が少なくできる道路や輸送手段を、積極的に研究し行政に提案して行く。また、各企業が開発、採用している省エネ手法やシステム等を企業間で共有研究し、各々の企業が自社にあわせて導入して行く。こんな活動が地域の自立化に繋がって行くのではないかと思います。地域ぐるみ環境 ISO 研究会の益々のご活躍を期待しております。

継続は力なり 株式会社光和 代表取締役 田中淳

弊社も参加させていただきましてから 9 年になりますが、当初は社内においても意識や行動の統一が行われずにいましたが、『継続は力なり』の言葉通り、現在では社員一人一人が環境配慮した行動を取れるようになってまいりました。これからも社内は基より、広く啓蒙活動を行っていければと考えております。



航空宇宙 JIS9100 を 有限会社アイエス精工 代表取締役 伊澤和明

当社は平成 22 年度 ISO 14001 に取得に向けて準備中です。昨年 12 月には品質マネジメントシステム航空宇宙 JISQ9100 を取得しました。現在は新工場の油庫建設中で、社用運搬車にエコ車を導入しました。

発言の内容と結果数値を エコトピア飯田株式会社 代表取締役 櫻井善實

祝ぐるみ 10 周年！人間の成長に例えれば 10 歳の誕生日。たくましい子供と成り少し発言出来るようになりました。これからは「その発言の内容そして結果数値」を精査する事が大切です。努力と新発想の日々が始まります。



環境意識の継続こそ 吉川建設株式会社 取締役社長 吉川光國

建設業の現場においては守らなければならない環境活動が多くあります。これ等の活動には即効性はありません。いかに環境に対する気持ちを持続させていけるかが大切だと考えています。地域に根ざした企業として、地域ぐるみ環境 ISO 研究会を中心に、南信地域の環境活動の輪が強化されるよう、当社としても積極的に活動して参りたいと考えております。



研究会の協力があってこそ 盟和産業株式会社取締役執行役員 環境部加推掛担当 角野元一

弊社は 2001 年に ISO14001 を認証取得しましたが、本研究会々員の皆様方の御協力が無ければ取得出来なかった事を、当時の担当者より聞いております。今後は弊社が研究会に協力させて戴き、地域の環境保護に貢献出来ればと考えて居ります。



多業種協働の意義 化成工業株式会社

業務部長 山口治行

多業種の企業が参加し、地域と一体となって様々な環境課題に向き合っている研究会の存在意義は非常に甚大と考えます。今後も環境改善活動に地域の多勢の方が参加し、研究会活動が持続していく事を切望致します。



一層地域に根づいた活動へ 株式会社原鉄

専務取締役 原誠

地域ぐるみ環境 ISO 研究会設立 10 周年、誠におめでとうございます。これまでの活動に敬意を表しますとともに、これからこの活動の環がますます大きく広がり、この地域に根づく事を祈念申し上げます。



ISO14001 認証に向けて 株式会社タカモリ

代表取締役社長 筒井常雄

研究会発足 10 周年、おめでとうございます。弊社は現在、今年 5 月に環境 ISO14001 の本審査に向けて準備を進めています。できるところから環境活動を進めていきます。今後ともよろしくご指導下さい。



日本全体に広げたい 神稲建設株式会社 代表取締役 原弘也

地域ぐるみ環境 ISO 研究会発足 10 周年おめでとうございます。世界で環境について叫ばれている中、この地域から始まった環境改善活動の環がさらに日本中に広がることを望み、また地域の発展に繋がることを願います。



次世代につなぐ活動に 南信共同アスコン株式会社 代表取締役社長 菅沼尚志

10 周年おめでとうございます。この 10 年で築き上げた、環境改善への取組みを大切にし、この先も私達は、次世代へつなぐ地域ぐるみの活動となるように、この研究会を盛り上げていきましょう。



クリーンエネルギーの普及を 株式会社トーエネック 飯田営業所長 大槻房雄

当社の環境取り組みは、H16 年度実績に対し、車両燃料及び電気使用量の削減(維持)、地域共生としての美化活動(周辺の信号機含む清掃)等を推進し、太陽光発電、エコキュート、IH クッキングヒーター等のクリーンエネルギーの普及推進を積極的に行っております。



新しい目標に向けて 株式会社マエダ

代表取締役 前田賢二

今月は、環境目標の見直しを行い、4 月からの活動内容を現在検討中です。収集トラック、構内車両の軽油の削減活動実施(現在データ計測中です)。騒音、振動防止と、排ガス規制付のマグネット重機の購入など。



京都議定書の目標達成を 飯田商工会議所 会頭 宮島八束

京都議定書の目標である、温室効果ガスの排出抑制はあらゆる分野に大きな影響を及ぼす課題です。「環境と経済の両立」の原則にたち、国、自治体、企業、市民、そして研究会の発信により地球温暖化防止対策運動をともに推進しましょう。



危機意識を胸に留めて 信南サービス株式会社

専務取締役 木下剛

毎日生活しているなかで、ごみが出る量の多さに驚きます。私たちが実践している活動と言えば冷暖房の使用を必要最小限に抑えたり、マイ箸やエコバッグを使ったりと、クーラーの代わりに打ち水で涼をとり花や緑も増やしました。地球温暖化が頻繁に叫ばれている今、危機意識を胸に留め、出来る限りのことを続けていきたいと思ひます。



身近な温暖化防止活動を 夏目光学株式会社

代表取締役 宮下忠久

今年 2 月は外部機関による ISO14001:2004 の維持審査を受けました。今年 11 月の更新審査に向けて改善を行います。会社の目的・目標とする環境活動で CO2 削減はノーマイカー通勤に頼ってきました。2008 年度 4 月からは、身近なところからできる地球温暖化防止活動：チーム・マイナス 6% への参加を進めています。家庭でもできる活動を今年から始めます。



(以上敬称略順不同で掲載させていただきました)
【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp





研究会に各界からの注目が 事業所代表者全体会を開催

「温暖化対策とは、特別なものでなくコツコツとやるもの、地域の方、一人ひとりが取り組む、できることからやる、そして継続するということが重要です」(エコシン63号より)。



3月24日(月)飯田市公民館で、地域ぐるみ環境ISO研究会参加事業所代表者会が行われました。冒頭は2月9日(土)10日(日)東京丸ビルホールで行われた「ストップ温暖化一村一品全国大会」に長野県代表として参加したメンバーによる報告です。

2月13日(水)から19日(火)にかけて「京都議定書発効3周年記念、温暖化防止一斉行動」が行われました。全国大会出場を記念して、3月1日(土)「信州産エコパワーを世界へ」(abn)で、この研究会の取り組みが放映されました。

2月15日(金)有楽町朝日ホールでJAB環境ISO大会が行われました。日本の環境ISOの課題とその解決について研究発表するこの大会で、地域ぐるみ環境ISO研究会の活動が取り上げられました。「EMSも組織を越えた環境問題に取り組むことが必要です。サプライチェーンやライフサイクルという考え方は広がっていますが、地域コミュニティとのつながりが課題です。EMSと地域コミュニティを結ぶ活動として、地域ぐるみ環境ISO研究会のような活動が国内に広がることを期待しています」。ワーキンググループ主査の倉光豊さんの発言です。

1997年に発足した研究会の活動が各界で注目を集めている様子が報告されました。

来年もつなげたい 地域ぐるみ環境講座

「事業所の活動から環境問題を学ぶ」「地域にある事業所のことを知る」「自分たちの進路を考える」。昨年6月18日から12月19日にかけて下伊那農業高校食品化学科の生徒の皆さんを対象に、地域ぐるみ環境講座が開講されました。冒頭は講座開講の目的です。持続可能な地域をつくるためには次世代を担う若者たちの力が必要です。地域ぐるみ環境講座は、高校生たちと結びつく、有意義な機会でした。次年度も継続していくことが確認されました。

温暖化防止一斉行動 着実な広がり定着へ

「今回の一斉行動は、前回は大きく上回る96の事業所に参加いただきました。事業所の看板の消灯時間を短くする。従業員全員にエコバックを配付する。毎週決まった曜日をノーマイカーデーとする。会社をあげた取り組みや、一斉行動を契機に日常的な行動に広がっているという報告が届いています。豊かな自然を次世代に渡したいというメッセージも多く寄せられています」。京都議定書発効3周年を記念した、今回の取り組みに対する事務局からの報告です。温暖化防止に向けた行動は着実に広がり、定着してきました。

南信州いいむす21 ガイドブックの作成へ

地域版EMS南信州いいむす21、現在56の事業所が取り組んでいます。ガイドブックを作成し、取り組みを一層広げていくことも確認されました。

飯田商工会議所では会頭に宮島八東氏が就任。新代表としてあいさついただきました。



環境モデル都市に向けて 研究会も全面支援を

政府は全国10都市を環境モデル都市に指定し、予算の重点配分などで支援していく方針を決めました。日本は2050年までに世界全体のCO2排出量を半減することを提案しています。環境モデル都市は、低炭素社会づくりを、国内で先進的に実現していく都市です。飯田市は南信州地域全体を圏域としこの環境モデル都市にエントリーする方針を固めています。代表者会では、環境モデル都市選定に向けた取り組みを、組織を上げて支えていくことを確認しました。

南信州地域交通問題協議会 環境団体として参加します

広大な面積で、急峻な地形の南信州。車社会の進展と裏腹に高齢化による交通弱者へのサービスが大きな課題です。南信州広域連合では、南信州地域交通問題協議会を設置し、この地域にふさわしい交通のグランドデザインを描くこととなりました。低炭素社会を実現するためにも交通問題は重要です。環境団体としてこの協議会に参加することとなりました。

「本日も多くの議題が論議されました。議題が多いということは、研究会に対する期待の表れでもあります。これからの研究会には一層成果が問われます」。牧野光朗飯田市長のまとめのことばです。

「取り組み成果が上がっているということは、実践が伴っているということです。内外に注目されている今、先進モデルとしての役割と課題を捉えることが必要です」。副代表でオムロン飯田株式会社、黒岩恒彦社長のあいさつです。

【ご意見、お問合せ】、【配詞解除】
沢柳俊之(多摩川精機研) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp





COP3京都会議から10年 研究会10周年記念行事

「研究会が生まれた年にCOP13が行われ、京都議定書が作られました。昨年はCOP13が行われ、ポスト京都議定書の論議が進められています。私たち研究会が地球環境大賞や日本環境経営大賞など多くの賞を受賞できたのも、南信州地域の皆さんの、環境意識の高さによるものです。環境問題は、事業所というサイトの中だけでは解決しない、面で行う問題です。産産あるいは産官連携の先駆的な取り組みとして始まった研究会、これからもますますの広がりを見込めます」。



3月24日(月)午後11時から研究会設立10周年を記念して、「COP13(京都会議)から10年」が行われました。主催は(社)県経営者協会飯伊支部地球環境委員会、(社)県環境保全協会飯田支部及び地域ぐるみ環境ISO研究会です。冒頭は研究会萩本範文代表のあいさつです。テーマは「10年の歩み」。

エコタウンから始まった 地位ぐるみ環境ISO研究会

続いて登壇したのは北原重敏市産業経済部長。テーマは「発足時の想い出」。「1996年、飯田市は第4次基本構想を策定、目指す都市像を環境文化都市としました。1997年北九州市や川崎市とともに飯田市は通産省のエコタウン事業、初年度の指定を受けました。①環境産業の振興を通じた地域振興と、②循環型社会を目指した総合的な環境調和型システムの構築が事業の目的です。飯田市は具体的な取り組みを進めるために、エコタウンサロンを開設。地域ぐるみ環境ISO研究会もこのサロンから生まれました」。



行政としても学びたい 点から面へのぐるみ運動

続いて北原氏は発言。「環境問題への取り組みを進めるためには、市民の草の根的な活動が大切です。研究会の活動は、企業から従業員、従業員から家庭あるいは地域へと広げる取り組みが有効であることを実証しました。10年後の今日にいたっても、時代の要請に応えた様々な取り組みが進められているのも、点から面へ活動を広げていこうというこの読みや戦略があったからでしょう。行政としても大いに学ぶ必要があります」。

私たちの向上は地球のお得 地球の向上は私たちのお得

3番目に登場したのはこの春下伊那農業高校を卒業した、森本亜美さん、木村祥子さん、羽田野早苗さん、市瀬友一朗君です。テーマは「地域ぐるみ環境講座を受講して」。



「講座ではまず、PDCAという環境マネジメントシステムの基本的な考え方や、環境影響評価による私たちの日頃行う活動を通して環境意識を持つことの必要を教えてくださいました。生ゴミを堆肥化する循環型農業の取り組みや、食品産業に不可欠な水の問題についても学びました。講座で学んだことを実践につなげるために、11月に行われた稲丘祭ではエコロジーをテーマとしました。暗幕を使わずに自然の光で展示、飾り付けも竹や葉など、自然のものを利用しました。過剰包装にも気をつけました。また日常的な活動の中でも、紙の両面使用、ごみの分別、実習時の節水節電、生ゴミの削減などにも取り組むようになりました。私たちの向上は私たちのお得。地球の向上は私たちのお得です」。

人材を縦につなげて、 42年後の未来を築く

リレートークの最後は、牧野光朗飯田市長です。テーマは「これからの南信州」。「本日の代表者会で、飯田市と南信州広域連合が環境モデル都市の選定に立候補することに対し、研究会をあげて支援いただくことを確認いただきました。日本政府は世界のCO2排出量を、2050年までに、1990年比でCO2を半減することを提案しています。2050年は今から42年先です。CO2の半減は、私たちの世代だけでは実行できる問題ではありません。本日は下伊那農業高校を卒業した4人の若者に発表いただきました。彼らをはじめとしてどのように次の世代に受け継いでもらうかが重要です。この地方の若者たちは、高校を卒業すると8割はいったんこの地を離れます。そして再びこの地には4割しか戻って来てくれません。研究会の運動はこれまで点から面へ、横に広げる取り組みを先駆的に進めてきました。42年後の南信州飯田のためには、人材をいかにこの地に環流していくか、縦につなげる取り組みが必要です」。



記念行事終了後は、立食形式の昼食会。会場には研究会がこれまでいただいた表彰状や、研究会の活動が紹介された雑誌なども展示。持続可能な地域づくりに向けて、研究会のますますの発展が期待されます。

【ご意見、お問合せ】、【問い合わせ先】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki.sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局
ic1267@city.iida.nagano.jp



南信州いむす21、56件に 飯田清掃(株)、ガーデンズ、 松川町役場に登録証

「環境改善活動は地道な活動。地道な活動が点になり面に広がり、南信州地域全体に広がって地域全体の環境が守れるようなそんな取り組みになっていけばと期待します。なお一層の取り組みをして、ぜひステップアップに挑戦していただきたいと思います。」

4月15日(火)飯田清掃株式会社、GARDEN⁴S(ガーデンズ)、松川町役場の3事業所に南信州いむす21の登録証(初級)が交付されました。

冒頭は南信州広域連合長、牧野光朗飯田市長のことばです。



飯田市中央通りの68店舗が一緒になって環境保全活動に取り組んでいるガーデンズ代表の近藤正隆さんは、「商店街が環境に取り組むというところに、なかなか理解されなかったが、ISO研究会の皆さんに一生懸命指導していただいた。」

「今後も、地道にひとつずつ続け、地域で必要とされるような商店街を目指していきたい。」



南信州いむす21は、地域の事業所が取り組みやすい簡易な環境マネジメントシステムとして平成13年に創設。平成18年には初級、中級、上級と国際規格に相当するISO14001南信州宣言のステップアップの仕組みがつくられて、取り組みやすくなっています。今回の3事業所の皆さんのステップアップの挑戦を期待します。

今回の登録で、南信州いむす21取り組み事業所は、初級47、中級8、ISO14001南信州宣言1、合計56事業所。取り組み宣言事業所が初級2事業所となりました。

環境モデル都市実現へ 市民から飯田市長に提案

「私たちは、未来から預かっている貴重な地球環境を永く守るため、当地域で今できること、これからやらなければならないことを、この1年学び合ってきました。この提案を実現し、日本の中心にあるこの地から全国に広く活動の輪が広がっていくことを期待します。」

4月2日、環境モデル都市に係る「総合的なモデル都市プラン」に関する具体案として、飯田下伊那地域の地球温暖化防止活動推進員有志(今村良子飯伊ブロックリーダー)とNPO法人「いいだ自然エネルギーネット山法師」(中島武津雄理事長)は、「低炭素ライフスタイルを実現するための施策」を牧野光朗飯田市長に提案しました。

今回の提案は、二つの団体が昨年度開催された「地球温暖化防止セミナー」を通して、化石燃料を使わないライフスタイルの実践を学習。ワークショップ方式で検討した内容と意見を12項目にまとめたものです。



低炭素ライフスタイル 実現のための12項目

- ①南信州グリーンフアンド
- ②レジ袋の有料化
- ③エコポイント制度による、CO2削減ライフスタイル実施者に対する褒章(厳しいばかりじゃ続かない!)
- ④自転車利用の拡大
- ⑤再生可能エネルギー対策
- ⑥景観改善を兼ねたCO2の削減対策
- ⑦深夜営業店舗の営業時間短縮協議会の設置

- ⑧エコ・省エネ住宅建設の助成・奨励
- ⑨白熱電球取替え運動
- ⑩省エネ農業の推進
- ⑪都市との連携によるCO2吸収源対策
- ⑫特色ある環境教育



「今回市民が中心になって低炭素ライフスタイル推進プロジェクトを考えてくれてことを心強く思っている。地域ぐるみでやらないと全体として効果があがらない。地域ぐるみで環境政策の立案・実践をアピールしていきたい。しっかりと検討し、提案が実を結ぶよう実践していきたい。」と牧野市長のコメント。

政府は全国10都市を低炭素社会づくりの国内で先進的に実践していく都市として、環境モデル都市に指定し、予算の重点配分などで支援していく方針を決めました。

飯田市は南信州全体を圏域とし、この環境モデル都市にエントリーする方針を固めています。

ISO研究会もこの取組を支援していきます。

oo

4月から研究会事務局が変わりました。発行が遅くなりましたが今年度の第1号です。

『ぐるみ通信』はこれからも引き続き発行していきますので、皆様からの情報の提供、ご意見をお寄せください。oo

【ご意見、お問合せ】、【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
北島高歩(飯田市役所) 研究会事務局
ic3142@city.iida.nagano.jp



07年環境首都コンテスト 飯田市が総合3位、人口別1位

今年で第7回を迎えた2007年度環境首都コンテストで、飯田市は総合で第3位、人口別(10万~20万)で第1位となり、環境首都コンテストの主催者の環境市民代表理事の杵本育生さんから牧野光朗飯田市長に表彰状が手渡されました。

写真は、4月21日(月)飯田市役所で行われた授賞式の模様です。



飯田市の取組事例評価 5事例が先進事例集に

今回の環境首都コンテストには、国内66自治体が参加。コンテスト開始以来、環境首都の称号を受ける自治体は誕生していません。

飯田市の取り組みで大きく評価されたのは「環境マネジメントシステム(80.0%)」「自治体交流(75.0%)」「パートナーシップ(75.0%)」「景観形成(78.0%)」「環境産業推進(83.3%)」「先進事例(100.0%)」など。

また飯田市の特徴は、先進事例として紹介された事例の多さです。今回は61の事例が紹介されましたが、このうち飯田市からは次の5つの事例が紹介されています。

- 1) ISO から地域の持続可能性向上へ事業者と協働する仕組み
- 2) フィリピン・レガスピ市における住民参加の上水道建設プロジェクト★
- 3) 地域自治をつくりかえる～地域自治区・まちづくり委員会★
- 4) かざこしカード
- 5) 「人材のサイクル」づくり★

★印は、特別表彰を受けた事例

第1位	北九州市 (福岡県)
第2位	水俣市 (熊本県)
第3位	飯田市 (長野県)
第4位	安城市 (愛知県)
第5位	新城市 (愛知県)
第6位	宇部市 (山口県)
第7位	板橋区 (東京都)
第8位	尼崎市 (兵庫県)
第9位	多治見市 (岐阜県)
第10位	豊田市 (愛知県)

持続可能で住みよいまち 環境首都を目指して

「この環境首都コンテストは、持続可能で住みよい、環境にとって本当にいいまちを築いていこうという自治体に参加していただき、いい意味でお互いが切磋琢磨して上層効果、地域住民と自治体が交流を深めていただこうと実施しています。決して順位づけすることが目的ではありません。」

授賞式で挨拶された杵本育生代表理事の言葉です。

2001年からはじまったこの環境首都コンテストは、2010年までの10年間を3期に分け、質問構成や配点などの見直しがされています。

第1期は施策、制度、計画、活動のあるなしを中心に、その内容と効果、住民参加の状況を加味し、第2期ではより重みをもった質問や採点構成とし、今回からの第3期では施策、制度、計画、活動を前提としてその内容と効果、住民参加の状況についてさらに重みをもった構成としています。

杵本育生代表理事は、「第3期目の2007年は全国平均では平均点が20点ほど下がっています。これは決して自治体が1年間サボっていたというのではなく、むしろ我々が質問のやり方を変えて、よりパフォーマンスを多くしたため。我々もこれを予測をしておりました。その中で飯田市は数少ない点数が伸びた市であります。たぶんこれは、効果というところに重きを置いていた結果だと思っています。我々も第3期はむしろそういうところを競い合っていたらいいと考えています。やっているものがほんとにまちにとっていいのか、住民にとっていいのか、また世界にとっていいのかという中で評価をしていきたい。8回9回10回とぜひ環境首都が誕生することを我々も願っております。」



ISO研究会一斉行動も評価

飯田市の質問分野別の評価を紹介します。

- * 「ローカルアジェンダ 21・環境基本条例・環境基本計画」＝地球温暖化対策地域協議会の立ち上げと成果。
- * 「住民とともにチェックする仕組み、情報公開」＝環境レポートや環境報告書。
- * 「自治体との交流」＝国内国外への取り組み。特に、先進事例表彰となった「フィリピン・レガスピ市における住民参加の上水道建設プロジェクト」。
- * 「職員の資質・政策能力の向上と環境行政の総合化、予算」＝政策マネジメントの取り組み、職員研修の充実。
- * 「住民のエンパワーメントとパートナーシップ」＝自治体基本条例の制定、公民館の活動、地域自治の取り組みと仕組み。
- * 「環境・まちづくり学習」＝公民館での環境学習。
- * 「風土を活かした景観形成と公園づくり」＝景観条例の策定、仕組みの構築。
- * 「まちづくりと一体化した交通政策」＝地域ぐるみ環境ISO研究会の一斉行動、総合的な環境行政。
- * 「環境に配慮した産業の推進」＝農業事業者の支援、IUターンの構築、農産物の地産地消、ソーラー太陽光の新規産業への参入。

環境モデル都市にエントリー

「今回、総合3位と過去最高の順位になったわけですが、常々申し上げているように、順位が上がった下がったということで一喜一憂するというものではないと思っています。この地域の環境を視点として考えたときのいわゆる健康診断、これが一番大事だと思っています。」

自分たちの強いところ、あるいはこれから強くしていかなければならない課題を第3者の客観的な視点から、評価していただいたことをうれしく思っています。このような側面からのご支援を励みに、飯田市も環境モデル都市のエントリーに向けて取り組んでいきたい。」と牧野光朗飯田市長のコメントです。

飯田市は、環境モデル都市にエントリーしました。「環境モデル都市」は、国の地域活性化統合本部が、温室効果ガス削減などの環境問題に独自に取り組む市町村を全国から募り、「環境モデル都市」として10自治体を選定します。

【ご意見、お問合せ】、【問い合わせ先】

沢柳俊之(多摩川精機機) 研究会事務局

toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp

北島高歩(飯田市役所) 研究会事務局

ic3142@city.iida.nagano.jp



ISO研究会の 実務者会開催

4月23日(水)、地域ぐるみ環境ISO研究会の実務者会が開催されました。

今年度の活動計画では、“南信州いいむす21”の訪問支援活動やガイドブックの作成、悩み事相談会の開催、「環境の日」啓蒙イベントの取組、内部環境監査員養成講座の開催などについて話し合いが行われました。

6月は「環境月間」

5日は「環境の日」です

6月5日は「環境の日」です。これは、1972年6月5日からストックホルムで開催された「国連人間環境会議」を記念して定められたものです。

国連では、日本の提案を受けて6月5日を「世界環境デー」と定め、日本では「環境基本法」(平成5年)が「環境の日」を定めています。

また、環境庁の主唱により平成3年度から6月の一ヶ月間を「環境月間」とし、全国で様々な行事が行われています。世界各国でも、この日に環境保全の重要性を認識し、行動の契機とするため様々な行事が行われています。



「環境の日」一斉行動 ISO研究会が呼びかけ

地域ぐるみ環境ISO研究会では、「環境の日」を記念し、6月5日(木)から11日(水)の一週間で『「環境の日」一斉行動週間』として、温暖化防止に向けた一斉行動を行います。

一斉行動の呼びかけ内容は、次のとおりです。

①平成20年6月5日(木)から11

日(水)を「環境の日」を記念した一斉行動週間とする。

②一週間のうち一回以上、参加事業所の従業員各人が、「ノーマイカー通勤」「午後10時までに家庭の照明及びテレビの電源を切る」「買い物の際にマイバックを持参してレジ袋を使用しない。」のいずれか又はすべてに取り組む。

③「一斉行動週間参加報告書」に記入し、研究会事務局(飯田市役所環境課内)へ「e-mail」か「fax」で、6月30日(月)までに報告する。

一斉行動の取組成果は、後日ぐるみ通信などで報告します。多くの皆さんの参加をお待ちしています。詳しくは研究会のホームページをご覧ください。

<http://www.city.iida.nagano.jp/kankyo/iso/index.html>

南信州いいむす21

訪問支援を行います

地域ぐるみ環境ISO研究会では、南信州いいむす21に取り組んでいる事業所の訪問支援を6月末までに実施します。

この訪問支援活動は、今年で2年目。研究会の事業所の実務者が15チームに分かれて、南信州いいむす21登録事業所を訪問し、各事業所の取り組みの一層の活性化に向け、事業所の相談に答えたり、改善点などを提案します。

“南信州いいむす21”に取り組む事業所の皆さんは、今回の訪問支援をステップアップの機会としてご活用ください。

自然環境再生セミナー開催 シンポジウムと演劇鑑賞

「美しいこの南信州。危機的状況にある森林や農地、損なわれている水環境、人々の心の中で忘れられている自然環境・文化。私たちのふるさとであり続け

るために・・・。」

6月13日(金)に飯田市鼎文化センターで「自然環境再生セミナー」が開催されます。

第1部のシンポジウムでは、午後1時から江戸川大学社会学部教授の恵小百合氏による基調講演「よみがえれ水と緑と木の文化」が行われます。

続いて、「遠山川は私たちの宝物(和田小学校6年生)」「魚の立場からの河川環境(下伊那漁業協同組合吉川賞治氏)」「南ドイツに似た私の村(売木村とんび農園伊藤昭子氏)」などの取組状況報告と意見交換が行われます。

第2部は午後6時20分(開場)から、ブラジル100周年を記念して信州の水をテーマとした「約束の水(NPO現代座)」の演劇公演が行われます。信州各地を取材して創られた「ふるさと」の物語です。この機会に家族のきずな、高齢者社会や中山間地域の問題、そして環境問題を考えてみませんか。

詳しいことは、自然環境再生セミナー実行委員会事務局(22-0604)または飯田市役所環境課(22-4511内線5249)までお問い合わせください。

当日は、駐車場が狭いため、公共交通機関をご利用ください



【ご意見、お問合せ】、【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp

北島高歩(飯田市役所) 研究会事務局

ic3142@city.iida.nagano.jp



齋藤喜孝さんを講師に 内部監査員養成セミナー開催

5月15～16日の2日間、CEAR主任審査員（オーディックスレジストラ(株)代表取締役社長）齋藤喜孝さんを講師に迎え、ISO14001内部監査員養成セミナーが、飯田市地場産業振興センターで開催されました。

このセミナーは、(財)飯伊地域地場産業振興センターと地域ぐるみ環境 ISO 研究会の主催により、飯田下伊那地域の事業所の皆さんが受講できるようにと昨年より地元開催をしています。

今年は、飯田下伊那の事業所から18名が受講しました。



市役所内部監査員教育訓練 吉野匡子さんを講師に実施

7月から実施される飯田市相互内部監査を前に、5月28日(水)内部監査員教育訓練が市役所で開催されました。

今年は、講師に所沢市役所環境クリーン部環境総務課長吉野匡子さんを迎えての学習会となりました。講師の吉野さんは、飯田市が自己適合宣言をして以来、内部監査に参加。飯田市の取り組みを熟知されており、受講者の側に立った学習会となりました。

この内部監査員教育は、飯田市がISO14001自己適合宣言をしたことにより環境マネジメントシステムの透明性を担保するために行う相互内部監査に備え、監査員としての力量を確保するために実施しています。



飯田市役所相互内部監査 今年も参加者を募集します

7月3日(木)から飯田市役所環境マネジメントシステムの相互内部監査が始まります。

今年は内部監査に先立ち、6月24日(火)午後6時から牧野光朗飯田市長に対するトップインタビューも実施します。

飯田市役所は、2003年1月23日に外部機関による審査から自己適合宣言に移行しました。自己適合宣言を行った飯田市にとってこの内部監査は、規格との適合性、システムの有効性を確認する機会として、また客観性、透明性を担保するという意味から、組織外部の参加者とともに行う相互内部監査は、市役所環境マネジメントシステムにとって大変重要な監査となっています。



(昨年の相互内部監査風景より)

相互内部監査の申込方法

参加条件は以下の通りです。「監査」に参加いただくためには、
①環境マネジメント審査員の有資格者②内部監査員養成コースの修了者③内部監査員として2年以上の経験者のいずれかの条件を満たしていること。この条件に該当していなくても、「オブザーバ」としての参加が可能です。

参加希望者は、次の内容を記し、メールでお申し込みください。

ikankyou@city.iida.nagano.jp

①お名前②勤務先など③電話番号
④資格・経験⑤監査を希望する課等(複数可)⑥「監査」「オブザーバ」の別

*監査の日程及び監査資料は下記のHPで公開しています。

<http://www.city.iida.nagano.jp/kankyo/>

多くの皆さんの参加をお待ちしています。

トップインタビュー開催 6/24 山本芳華さんを迎えて

飯田市役所では、7月の内部監査に先立ち、6月24日(火)午後6時から7時まで、市役所3階大会議室でトップインタビューを行います。

インタビューには、飯田市の相互内部監査に毎年参加いただいている山本芳華さん(摂南大学経営情報学部経営学科准教授)。

山本さんは、IEMA及びCEAR主任審査員。内閣府経済社会総合研究所客員研究官も務められています。

飯田市役所の環境マネジメントシステムや、持続可能な地域づくりに対する市長の考えを表明し、その考えを内部監査に反映することが目的です。

どなたでも参加できます。特に相互内部監査に参加を希望される方、ぜひご参加ください。

100万人のキャンドルナイト '08in南信州に参加しよう

今年も一年で一番昼間の長い日「夏至」が近づいてきました。

6月21日(土)に「100万人のキャンドルナイト 08-夏至-in 南信州」が実施されます。

当日は午後8時から10時までの2時間、街の明かりや家の照明を消して、スローな夜を。もちろん夜10時までのすべての時間、すべての電気を消す必要はありません。『夜8時に一斉にライトダウンする』『過ごし方は参加する皆さんの思いのままに行う』このことさえ実行できれば、このイベントに参加した立派な証になります。一人ひとりの取り組みが大きな輪となり、多くの人々の環境への思いがひとつに。

みんなで南信州の「スローナイト」に参加してみませんか。

ISO研究会の皆さんもぜひご家族でご参加ください。



【ご意見、お問合せ】、【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp

北島高歩(飯田市役所) 研究会事務局

ic3142@city.iida.nagano.jp



温暖化防止一斉行動

106事業所、延べ45,685人参加

「環境の日」を記念して、地域ぐるみ環境ISO研究会の呼びかけで、6月5日から11日まで温暖化防止一斉行動週間が行われました。

今回の参加事業所は106事業所。参加者はノーマイカー運動に10,231人、ライトダウンに14,573人、ノーレジ袋に20,881人、延べ45,685人の従業員や家族の皆さんに参加していただきました。

公共交通機関や乗り合せ通勤 ノーマイカーで22.6t削減

「同じ地区、方向から出社する場合は1台に2～3人が乗り合わせて出社。一番遠い人が拾ってくる。」「自転車での通勤を実施した。」「公共交通機関を通勤や出張に利用した。」「普通車から、軽自動車・バイクに乗り換え通勤した。」など、期間中の取り組みです。

ノーマイカー通勤

の取り組みには、10,231人が参加。CO₂に換算して22.6tの削減効果がありました。



早寝早起き、子供と実践 ライトダウンで7.8t削減

「午後10時以降、子供の勉強は一つの部屋に集めるようにした。」「午後9時就寝、消灯。」「午後9時以降のテレビ禁止。」「毎日、早寝早起きを子供と一緒に実践している。」「環境週間中は、一部屋にて娯楽を行った。」「お風呂に入る際、ローソクを使用。」「早寝早起きを実施。(早めの消灯)」「10時に消灯して寝た。」「テレビを切った。」「部屋の電気をこまめに消す。」など、参加者の皆さんの工夫した取り組みが伺えます。



ライトダウンの取り組みでは、14,573人が参加。CO₂に換算して7.8tの削減効果につながっています。

家族一人にひとつのマイバック

ノーレジ袋で0.2t削減

「家族でマイバックを一人1つ以上購入した。」「買い物かごを各自購入している。」「会社でエコバックを支給。」「マイバックを忘れた時は、店の空箱ダンボールをもらって入れて帰り、ダンボールは資源ゴミとして出した。」「常に買い物袋を持ち歩くようにした。」「車の中に古いレジ袋を入れてある。」「コンビニでの買い物の時は、レジ袋をもらわない。」「朝礼で買い物のマイバック利用を勧めた。また家族に協力を要請した。」「車に一枚・マイバッグ、マイ袋、マイバスケット。」など、工夫を凝らした取り組みが行われました。



今回で2回目となるノーレジ袋の取り組みには、20,881人が参加。CO₂換算で0.2tの削減効果がありました。

ガソリン換算13,164ℓ

CO₂削減推計値で30.6t

今回の一斉行動期間中で削減された二酸化炭素は30.6t。この取り組みを1年間続けると1,588t。灯油に換算すると637,796ℓでポリタンク35,433本分に相当します。ガソリン換算では、684,531ℓで、燃費10kmの車で約685万km、月まで8.9往復できる計算になります。また、飯田市の削減目標値に対するCO₂削減量の割合は2.4%。

一斉行動に参加して・・・ 子供や孫にきれいな地球を

「目標を持ってやれば案外できるものだった。」「家庭でエコ活動の分担表を作り、意識して生活するようにしている。」「子供や孫にきれいな地球を残してあげたい。」「ひとり一人が意識して行動することが大切。」「ごみを減らせる工夫をしたい。」「小さなことからコツコツ頑張ります。」「徒歩で通勤したところ、近くの中学生がさわやかなあいさつをしてくれて気分よく、また、道路沿いの花など新しい発見が来て、良いことづくめでした。」

ローソク灯して家族で夕食

「テレビを消し、ローソクの明かりで家族そろって食事をした。」「休日は、自転車・徒歩・バスなどを利用した。」「軽自動車等、燃費の良い車で外出した。」「シャワーの水を出したままにしない。」「お風呂の残り湯を洗濯に使用する。」「子供に残そう緑の地球。」「日曜日のテレビ(エコ番組)を観て家族で何ができるか話し合った。」参加者の皆さんが取組まれた内容や感想です。



今回参加いただいた事業所は、以下のとおりです。(順不同、敬称略)

旭松フレッシュシステム(株)アザーレミックス(株)アルプス精工(株)飯田エフエム放送(株)飯田家畜保健衛生所/飯田教育事務所/飯田建設事務所/飯田工業(株)飯田精密(株)飯田帝通(株)飯田保健所(株)エフプラス/NSKマイクロプレジション(株)F L C/勝間田建設(株)カムテック(株)カリス/喜久水酒造(株)技建開発(株)桐林クリーンセンター/株乾光精機製作所飯田工場/KOA(株)阿智工場/KOA(株)飯田工場/KOA(株)匠の里(株)三六組(株)三和精機(株)シーテック長野支社飯田支店/下伊那町村会/下伊那農業改良普及センター/下伊那山林協会/下伊那地方事務所/信州航空電子(株)瀬口脳神経外科病院(有)タイトック(株)ダイマル/田中精機(株)タニガワ/多摩川航空電装(株)多摩川航空電装機器(株)多摩川精機エレクトロニクス(株)多摩川精機販売(株)多摩川テクノクリエーション(株)多摩川ロジステックス(株)長野県LPガス協会飯伊支部(株)天龍(株)ナガイ/長野県健康づくり事業団飯田支所/長野県建築士会飯伊支部/長野県林業公社/長野県林業コンサルタント協会南信事務所/長野県商工会連合会南信支所/南信会計センター飯田分室(株)中村(有)野中製作所/南信労政事務所飯田駐在/八戸ハイテック(株)株林精機/飯伊浄化槽組合/飯伊森林組合/平和精密(株)有福岡清掃事業所(株)平安/マツコワモーターロニクス(株)株丸宝計器/松島産業株第二工場(株)マルヒ(有)三笠エンジニアリング(株)ミナミ(株)ミナミ八戸工場南信州広域連合(有)宮口屋/メルクス(株)有森協精機(株)山岸エーアイシー/ヨコタ(株)龍共印刷(株)レムキャスト(有)アイエス精工/旭松食品(株)アース・グリーン・マネジメント/飯田市役所/飯田商工会議所/飯田信用金庫/井坪設備工業(有)エコトピア飯田(株)オムロン飯田(株)化成工業(株)木下建設(株)株光神稲建設(株)シンズン平和詰(株)信南サービス(株)株タカモリ/多摩川精機(株)TDK飯田(株)中部電力(株)トーエネック飯田営業所/南信共同アスコン(株)夏目光学(株)八十二銀行飯田支店(株)原鉄(株)マエダ/東日本システム建設(株)飯田支店(株)三菱電機(株)中津川製作所飯田工場盟和産業(株)吉川建設(株)

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
 北島高歩(飯田市役所) 研究会事務局
ic3142@city.iida.nagano.jp